

団体名		公益財団法人 武蔵野文化事業団					
①	指標名	市民満足度			目標値	実績値	達成状況
	過去の実績	平成27年度	平成28年度	平成29年度	達成率	50% (未達成) 100% (達成)	未実施(未達成)・達成
	(単位: -)	(平成30年度に新たに設定した指標のため、過去の実績なし)					
	取組内容	<p>※H30年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>①事業の目的(舞台芸術公演事業、芸術文化普及事業、芸術文化教育事業など)を従来より明確化し、芸術文化の推進という目標との関係を意識した、次年度事業計画を策定した。</p> <p>②中長期スパンで芸術文化の推進に取り組んでいくため、初めての経営計画となる「中期計画」の検討を開始した。</p> <p>③市内小学校へのアウトリーチ事業に加え、乳幼児から入場できる「オーケストラ公開リハーサル」、家族向けの「ファミリー・シアター」など新たな事業展開を行なった。</p> <p>④従来どおり高い売上率を維持するとともに、親子向け事業など関するチラシの全戸配布や、近隣の幼稚園などへの直接アプローチなど、新たな層の参加につながる広報に努めた。</p> <p>⑤独自招聘24本のほか、これまで行っていなかった「能・狂言」公演、「避難訓練コンサート」などを行った。</p> <p>⑥ロビーでの季節飾りの展示等もを行い、管理運営する8施設の合計で、前年比49,154人(9%)増の588,734人の来場者数があった。市のモニタリング調査では、市民文化会館について、満足・概ね満足が95.2%という評価であった。</p> <p>⑦来場者に限らない、より幅広い市民の満足度を計るための手法を研究するとともに、より正確なモニタリング調査結果を得られるよう、職員向けの研修を実施した。</p>					
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>・アンケートについては、まず従来のアンケートの結果分析を検討したところ、個別事業の評価であって、回答者の固定化や極端な意見の方が多く提出している状況が見られることを把握できた。来館者アンケートやモニタリング調査を活用しつつ、内容の拡充(個別事業ではなく、文化事業団の取組み全体に対する評価など)や、対象者の拡大を検討を継続する。</p> <p>・これまで働きかけの少なかったファミリー層や馴染みの薄い層をターゲットとした事業を企画し、その広報も通じて、顧客層を広げることができた。今後は、来場者以外の市民も対象にした、事業成果も含めた効果的な広報の手法を検討する。</p>						
二次評価	<p>平成30年度はこれまで十分に分析できていなかったアンケートの分析を行ったことで、評価するうえでの課題が把握できた。引き続き市民満足度を計るうえで効果的な指標について検討すること。「能・狂言」公演、「避難訓練コンサート」などの新たな公演を行ったように、今後も事業展開の幅を広げていただきたい。</p>						
②	指標名	事業収益(入場料収益、その他事業収益、物品販売収益)			目標値	実績値	達成状況
	過去の実績	平成27年度	平成28年度	平成29年度	達成率	108.3%	未実施・未達成(達成)
	(単位: 千円)	171,856	78,330 (文化会館休館)	136,282 (リニューアル・オープン記念 86,088を除く)			
	取組内容	<p>※H30年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>・チケット販売に力を入れ、入場料収入の増加に努めたほか、他館にもネットワーク事業として、公演を紹介・斡旋し、事業収入の増加に努めた。</p> <p>・吉祥寺美術館ミュージアムショップにおいては、平成30年度に発行した『はな子のいる風景 イメージを(ひつ)くりかえす』が非常に好評であったこと、コピス吉祥寺と連携した「福田利之展」、絵本をテーマにした「柿本幸造展」などのテーマ展示により、来館者が増加したことと連動し、当初予算(4,000千円)を大きく上回る収入(11,325千円)が得られた。</p>					
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>・法人がこれまで培ってきた能力を活かし、アーティストを独自招聘し、他館にも紹介・斡旋できる魅力ある公演を企画・実施したことが、収入額(補助金を除いた自主財源収入)の増加につながったと考える。</p> <p>・自主財源の収支については随時、適切な執行状況の把握に努め、人気のあったミュージアムショップ取扱商品の需要に合った増刷をすることで、さらに収入増につなげることができた。今後も、適切な収支バランスでの事業展開に努める。</p>						
二次評価	<p>アーティストの独自招聘やミュージアムショップの取扱商品の適切な数量調節など独自の工夫をし、自主財源の確保に努めたことは評価できる。今後も適切な収支バランスを維持するため、チケットの販売金額については個々の内容に応じて適正な金額設定を検討していく必要がある。</p>						
③	指標名	職員研修の本数及び参加率			目標値	実績値	達成状況
	過去の実績	平成27年度	平成28年度	平成29年度	達成率	142.8% 77.0%	未実施(未達成)・達成
	(単位: -)	(平成30年度に新たに設定した指標のため、過去の実績なし)					
	取組内容	<p>※H30年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>公益財団法人・市の財援団体・市施設の指定管理者の職員として、適切な職務執行意識と資質の向上等のため、以下の取組みを行った。</p> <p>①理事長講話(主任以上・新人職員・2,3年目職員・課題別モニタリング):<参加>延べ61名/<対象者>61名、100%②あーとま塾(可児市での宿泊伴う研修):<参加>3回6名③シブボボランティア派遣研修と報告会:19名/29名、66%④市文化振興基本方針説明会(講師:市民活動推進課長):16名/29名、55%⑤防犯訓練(武蔵野警察と合同):19名/29名、66%⑥接遇研修(専門家を講師にして実技研修):27名/29名、93%⑦チケット発券研修(新人向け):8名/10名、80%⑧全国公文協研修:<参加>11名⑨チケット電話受付研修(新人):延べ5名/10名、50%⑩避難訓練コンサート:19名/29名、66%。合計:174名/226名=77%(②あーとま塾と⑧全国公文研修は外部研修のため参加率からは除く)</p>					
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>平成30年度から、研修のあり方を見直したことによって、内部研修が計画的に企画され、また対象職員の参加が促進された。また、法改正を契機に、雇用形態ごとの職務のあり方を整理したことが、職員のモチベーションの向上にもつながるとともに、専門的な知識の習得やそれによる適切かつ効率的な事務執行につながった。</p>						
二次評価	<p>内部研修の実施を計画的に企画し、参加が促進されたことを評価する。引き続き、各段階に応じて必要な研修体系を構築していくこと。</p>						